

概 要

概 要

沿 草

幕政の頃我が大和國は郡山、高取、柳本、櫛羅、芝村、小泉、柳生、田原本の八藩が分封管治し、和歌山、津、久居、大多喜、壬生の五藩の分邑、高取藩預所、奈良奉行所及百三十三ヶ所の代官所、旗本宮堂上、神社、寺院、社家等に分屬してゐた、明治元年五月、高取藩預所、奈良奉行所及百三十三ヶ所の代官所、旗本、宮堂上、神社、寺院、社家、管領等を奉還し同年五月奈良縣を置き之を合せ管轄し、同二年六月各藩版籍を奉還し、同三年二月奈良縣の一部を分つて五條縣を、同四年七月藩を廢して縣を置き、郡山縣、高取縣、柳本縣、櫛羅縣、芝村縣、小泉縣、柳生縣、田原本縣となつたが、同年十一月各縣を廢して更に奈良縣を設け、大和全國を統轄するやうになつた、明治九年四月奈良縣を廢し堺縣に併合し更に明治十四年二月堺縣は大阪府に編入せられたため、大阪府に屬したが明治二十年十一月十日大阪府を割いて、再び奈良縣を置き、大和全國を管轄し以て今日に至つてゐる、明治三十四年四月添上郡外十四郡を合併して十郡とし、同三十一年二月添上郡奈良町に市制施行、大正十二年郡制廢止、現在は一市十郡百五十ヶ町村を管轄してゐる。

土 地

位 置 本縣は畿内の東南部に位し一市十郡二十九町百二十一村を管轄してゐる、東は三重縣に境し西は大阪府に隣り南は和歌山縣に境し北は京都府に接し、東經135度33分より起つて136度12分に至り北緯33度52分より34度47分に達してゐる。

地 勢 南北に長く東西に狭く山岳は四面を圍繞して北方纔に開通してゐるのみである、東は國見山、高見山、大臺ヶ原山、備後山等の群峰を隔て、三重、和歌山縣に境し南は峻嶺相重つて和歌山縣の諸嶽山嶽と交差し、西は金剛、葛城、信貴、生駒の連山起伏して大阪府と境を劃してゐる。

山嶽及河川 山嶽の大なるものに七面山、佛經岳、彌山、釋迦ヶ岳、大臺ヶ原山、國見岳等があり、何れも南方に巍峨として屹立してゐる、河川は飛鳥、富雄、龍田、葛城其の他數多の小川が合流して大和川となり西流して大阪府に入り、宇陀川は源を宇陀郡に發し三重縣を経て名張川となり再び遙かに北部を匯りて京都府に赴き、吉野川はその源を大臺ヶ原に發し中央を貫流して紀ノ川となり南海に入り、又十津川、北山川は共に吉野郡の山間に發し和歌山縣を経て南海に注いでゐる。

面 積 本縣は東西64.13軒強南北102.22軒弱で、面積は3,688.6方軒である、之を郡市別に觀て最も大なるは吉野郡の2,262.7方軒で總面積の六割二厘を占め、宇陀、山邊、生駒、添上、磯城、北葛城、宇智、高市、南葛城の各郡順次之に亞ぎ奈良市の29.8方軒は最小である。

地 質 本縣の地質は錯雜混入してゐるが、之を大觀すれば南半は大部分古生層にして中生層は其の南端の一部を占め北半は火成岩より成つてゐる、地質には花崗岩、安山岩があり、水成岩層中には片麻岩の地が多く之に亞いで第三紀層が多く、其の他の地層は此等の間に介在して小面積を占むるのみである。

民業及物産 民業は農業を主とし山地に於ては林業を兼ね、又市街地には専ら商工業に従事し養蠶、製

茶を業とするもの亦尠くない、物産の主なるものに米、賣藥、綿絲に紡績(以上壹千萬圓)杉用材、酒類、麥、(以上五百萬圓)金巾、繭、鈿、檜用材、メリヤス生地、蚊帳、靴下、シャツ及ズボン下、木炭、スイカ(西瓜)、蠶絲類、綾綿布、墨、蓄音機レコード、凍豆腐、屠肉(牛)、醬油、探肉(鶏)、モミ、シラベ、トウヒ用材(以上百萬圓)等があり、生産總額は153,524,320圓で現住一人當の生産額は250圓80錢である。

氣 象

氣 壓 昭和十三年の平均氣壓は756.2耗で前年に比べて0.6耗低くその最高は一月の761.8耗最低は八月の752.4耗である。

氣 温 昭和十三年中の平均氣温は攝氏14.4度で平年より0.3度低く、年内を通じ氣温の最高極は七月二十一日の37.0度、最低極は一月十八日の零下5.7度である。

降 水 量 昭和十三年に於ける降水量は1,370.2耗で平年の1,433.0耗に比較すれば52.8耗少く、一ヶ月の平均降水量は114.2耗で降水量の最も多い月は九月の216.9耗、最小は二月の23.2耗である。

戸 口

人口 靜 態

現住人口 警察戸口調査規程に依る昭和十三年末の戸口は戸數122,930戸人口612,142人内男295,366人女316,776人で女100人につき男93.2人に該り一戸當の平均人員は4.98人である。前年末に比し人口13,096人を減じ一方軒當の人口は166人となつてゐる。

現在人口 昭和十年國勢調査の結果に依る現在人口は620,471人で内男306,011人女314,460人女100人につき男97.3人で昭和五年國勢調査に比べて總數8,329人内男10,645人を減じ女2,316人を増加し、一方軒當人口は166人である。

一 方 軒 當 人 口

	國 勢 調 査		戸口調査=依ル 現 住 人 口		國 勢 調 査		戸口調査=依ル 現 住 人 口
	現在人口	常住人口			現在人口	常住人口	
添上郡	208	209	201	北葛城郡	716	722	749
生駒郡	440	441	444	南葛城郡	448	468	475
山邊郡	284	281	214	宇智郡	283	284	281
磯城郡	504	506	513	吉野郡	44	43	44
宇陀郡	113	114	111	奈良市	1,878	1,871	1,818
高市郡	556	575	582				

人口 動 態

婚 姻 昭和十三年の婚姻は5,364件で前年に比し1,967件少く、人口千に對する婚姻率は8.44件である。

- 離婚** 離婚は362件で前年に比し66件を減じその人口千に對する割合は0.57である。
- 出生** 出生總數は14,614人内男7,512人女7,102人で女100人につき男106人に該り前年に比し3,070人(1割7分4厘)を減じ人口千に對する出生率は23.00である。
- 死産** 死産は總數919人内男536女376男女不詳7で前年に比し209人(2割2分7厘)を減少し人口千に對する死産率は1.75にして前年に比し0.34減少してゐる。
- 死亡** 死亡者は總數11,437人内男5,889人女5,548人で前年に比し101人増加し人口千に對する死亡率は18.00である。
- 自然増加** 昭和十三年に於ける本縣人口の自然増加は3,177人内男1,623人女1,554人で人口千に對する増加率は5.00に上り、前年に比べて3,171人(5割)少く、男女の割合は女100人につき男104人である。

生産總額

昭和十三年に於ける生産總額は153,524,320圓で前年に比し11,965,564圓(8分4厘)を増してゐる。

本縣生産總額の趨勢は世界大戰當時174,598,746圓を算した大正八年を最高として年に依り高低はあつたが、漸減の傾向を辿り昭和六年にはその半にも及ばない80,819,106圓となつた。昭和七年より次第に増加して最近は年と共にその額を加へ再び大正八年時代に近付かんとしてゐる。

之を種類別に觀ると工業は依然として最も多く86,389,900圓で王座を占め、以下農産41,228,007圓 林産15,841,467圓 蠶絲業産4,347,219圓 畜産3,816,140圓 水産742,158圓 鑛産1,159,429圓の順となつてゐる。

郡市別生産總額の最高は北葛城郡の28,687,487圓で最低は宇智郡の5,003,112圓である、奈良市を除く一町村當の生産額は941,328圓であるが平均額を超えるものは僅々39ヶ町村に過ぎない、生産總額を現住戸口に對比すれば一戸當1,249圓一人當251圓となり前年に比し前者100圓後者25圓を増してゐる。

最近十ヶ年間及郡市別の生産總額の割合は次の通である。

	總數	農産	蠶絲業	林産	鑛産	水産	畜産	同指	上數	現一人當
	總數									
	數									
昭和	年									円
4	100.0	26.6	9.6	56.3	5.0	0.3	0.3	1.9	100	204.46
5	100.0	26.5	7.2	59.1	4.3	0.3	0.5	2.1	73	149.74
6	100.0	24.6	6.7	60.8	4.7	0.2	0.6	2.4	64	131.70
7	100.0	28.3	6.4	57.8	4.6	0.3	0.6	2.0	69	104.77
8	100.0	26.2	7.0	59.2	4.8	0.3	0.6	1.9	82	165.76
9	100.0	27.4	3.5	60.6	5.6	0.4	0.6	1.9	88	179.41
10	100.0	27.4	4.8	57.7	7.4	0.5	0.5	1.7	95	194.93
11	100.0	27.5	4.2	59.0	6.6	0.4	0.5	1.8	100	202.18
12	100.0	27.4	3.6	58.9	7.3	0.6	0.5	1.7	103	226.41
13	100.0	26.8	2.8	56.3	10.3	0.8	0.5	2.5	122	250.80

			總 數	農 産	蠶 絲 産	工 産	林 産	礦 産	水 産	畜 産	同 上 指 數	現 住 一 人 當	
			郡 市 別									(縣總額ニ對スル非 省總額100トシテ)	
												%	円
添 上 郡	100.0	65.8	2.1	16.7	5.9	0.5	0.9	8.1	4	175.46			
生 駒 郡	100.0	29.9	0.3	62.6	0.6	0.9	1.9	3.8	14	245.04			
山 邊 郡	100.0	53.8	4.7	31.5	6.5	0.2	0.4	2.9	5	182.82			
磯 城 郡	100.0	39.1	7.4	48.8	1.8	0.1	0.1	2.7	12	228.09			
宇 陀 郡	100.0	43.8	8.1	20.8	21.9	1.0	0.2	4.2	4	151.70			
高 市 郡	100.0	20.5	1.1	76.3	1.2	0.1	0.1	0.7	11	373.97			
北 葛 城 郡	100.0	20.0	0.4	76.4	0.2	0.8	0.3	1.9	19	372.36			
南 葛 城 郡	100.0	28.6	1.2	66.4	1.3	0	0.1	2.4	5	273.74			
宇 智 郡	100.0	33.8	7.3	50.8	2.9	1.0	0.5	3.7	3	197.33			
吉 野 郡	100.0	13.9	5.6	18.5	58.2	2.3	0.3	1.2	14	222.47			
奈 良 市	100.0	4.2	—	94.0	0.1	0	0.1	1.6	9	250.80			

主 要 物 産

昭和十三年の主要物産は米の26,318,333圓を首位とし賣藥、綿絲紡績、杉用材、酒類、麥、金巾、繭、鉛、檜用材、メリヤス生地、蚊帳等順次之に亞ぎ何れも200萬圓以上の産額を有してゐる。

今100萬圓以上の物産を擧ぐれば次の通である。

米	26,318,333	円	シヤツ及ズボン下	1,429,915	円
賣 藥	13,308,646		木 炭	1,297,572	
綿 絲 紡 績	10,441,950		ス イ カ (西 瓜)	1,242,333	
杉 用 材	8,750,453		蠶 絲 類	1,223,946	
酒 類	6,785,369		綾 綿 布	1,215,480	
麥	5,323,355		墨	1,156,350	
金 巾	4,741,449		蓄 音 機 レ コ ー ド	1,138,767	
繭	2,930,257		凍 豆 腐	1,085,840	
鉛	2,716,871		屠 肉 (牛)	1,063,589	
檜 用 材	2,462,119		醬 油	1,046,498	
メ リ ヤ ス 生 地	2,210,879		探 肉 (鶏)	1,032,190	
蚊 帳	2,140,226		モミ、シラベ、トウヒ用材	1,016,305	
靴 下	1,657,350				

農 業

耕地面積 昭和十三年末に於ける耕地面積は44,305町3段内田32,825町5段(7割4分1厘)畑11,479町8段(2割5分9厘)で耕地は總面積の1割2分に該つてゐる。

最近五ヶ年間の趨勢を觀ると次の通である。

	年 末	總 數	田	畑	指 數		
					總 數	田	畑
昭和	9	44,836.8	33,269.1	11,567.7	100	100	100
〃	10	44,768.3	33,193.9	11,574.4	100	100	100
〃	11	44,765.3	33,122.2	11,643.1	100	100	101
〃	12	44,654.5	33,066.7	11,587.8	100	99	100
〃	13	44,305.3	32,825.5	11,479.8	99	99	99

同年中の耕地面積の移動は擴張84町8段内田14町3段(1割6分9厘)畑70町5段(8割3分1厘)その潰廢は424町1段内田256町9段(6割0分6厘)畑167町2段(3割9分4厘)でその他の地目變換等による移動を加へ、前年末に比し349町2段を減少してゐる。

農家戸數 昭和十三年末に於ける農家戸數は61,201戸にして總戸數の4割9分8厘に當り前年に比して1,283戸を減少してゐる。

農業を専業とせるものは36,992戸(6割0分4厘)兼業とせるものは24,209戸(3割9分6厘)で、更に之を自作、小作別に觀ると自作21,699戸(3割5分4厘)小作16,267戸(2割6分6厘)自作兼小作23,235戸(3割8分)となつてゐる。

最近五ヶ年間の趨勢を觀ると次の通である。

	年 末	總 數	専 業	兼 業	自 作	小 作	自作兼 小 作	指 數					
								總 數	専 業	兼 業	自 作	小 作	自作兼 小 作
昭和	9	64,151	40,750	23,401	22,705	17,744	23,702	100	100	100	100	100	100
〃	10	64,049	42,041	22,008	22,456	17,716	23,877	100	103	94	99	100	101
〃	11	62,490	41,427	21,063	21,981	17,099	23,410	97	102	90	97	96	99
〃	12	62,484	41,364	21,120	22,203	16,642	23,639	97	102	90	98	94	100
〃	13	61,201	36,992	24,209	21,699	16,267	23,235	95	91	103	96	92	98

耕地所有農家戸數 昭和十三年末に於ける耕地所有農家戸數は61,201戸で前年に比し5,192戸(8分5厘)を増してゐる、耕地五段歩未滿の所有者は總數の4割3分5厘を占め、五段以上一町歩未滿は2割4分6厘で一町歩以上は3割1分9厘に過ぎない。

最近五ヶ年間に於ける趨勢を觀ると次の通である。

	年 末	總數	五未段滿	五以段上	一以町上	三以町上	五以町上	十以町上	五以十町上	指 數							
										總數	五未段滿	五以段上	一以町上	三以町上	五以町上	十以町上	五以十町上
昭和	9	55,135	30,970	14,785	7,751	1,186	342	96	5	100	100	100	100	100	100	100	100
〃	10	55,988	31,546	15,155	7,787	1,091	313	95	1	102	102	103	100	92	92	99	20
〃	11	56,171	31,742	14,968	7,981	1,058	326	94	2	102	102	101	102	89	95	98	40
〃	12	56,009	31,603	15,068	78,00	1,089	343	104	2	102	102	102	101	92	100	108	40
〃	13	61,201	26,647	24,332	10,158	57	7	—	—	111	86	165	131	5	2	—	—

農産物價額 昭和十三年の農産物總價額は41,228,007圓で前年より2,397,858圓(6分2厘)多くなつてゐる。

農産物をその利用上より分類すると米の26,318,333圓が最も多く總額の6割3分8厘を占め、麥5,323,355圓(1割2分9厘)果菜類2,213,412圓(5分4厘)果樹類1,840,644圓(4分5厘)芋類1,614,664圓(3分9厘)工藝農産物1,183,122圓(2分9厘)根莖類936,805圓(2分3厘)莢實類461,398圓(1分1厘)米麥を除く穀菽類418,380圓(1分)葉菜類401,980圓(1分)花卉類272,785圓(6厘)綠肥用作物114,877圓(3厘)農産種苗類の124,483圓(3厘)順次之に亞ぎ青刈飼料作物3,769圓(0)が最少である、耕地一段歩當の農産額は93圓05錢で前年より6圓09錢(7分)を増し、郡市別に觀て最も多いのは添上郡の115圓51錢最少は奈良市の10圓69錢である。

最近五ヶ年間に於ける比較及郡市別は次の通である。

		總 額	米	麥	其 他 穀 菽 類	果 樹 類	芋 類	莢 實 類
		總			數			
年		円	円	円	円	円	円	円
昭和	9	30,448,347	20,590,030	2,946,746	288,313	1,377,923	1,181,988	288,907
〃	10	32,900,927	22,074,545	3,252,911	326,697	1,574,669	1,343,177	325,320
〃	11	34,600,166	22,708,484	4,059,751	333,313	1,549,318	1,342,913	399,375
〃	12	38,830,149	25,412,142	4,602,783	333,897	1,620,585	1,460,398	436,867
〃	13	41,228,007	26,318,333	5,323,355	418,380	1,840,644	1,614,664	461,398
		郡 示 別						
添 上 郡		4,344,611	2,808,771	432,763	39,577	132,458	108,112	54,659
生 駒 郡		6,228,917	4,478,963	657,032	37,842	343,220	135,884	81,201
山 邊 郡		4,092,161	2,494,590	515,384	61,752	147,739	96,759	45,955
磯 城 郡		6,947,786	4,475,211	1,170,811	60,704	195,841	195,519	48,709
宇 陀 郡		2,497,283	1,933,013	138,554	43,584	34,554	108,155	36,571
高 市 郡		3,544,200	2,358,417	569,201	18,152	127,441	125,244	21,839
北 葛 城 郡		5,748,062	3,605,694	840,390	38,726	317,643	216,245	99,435
南 葛 城 郡		2,522,891	1,560,765	398,466	16,363	65,234	165,255	35,395
宇 智 郡		1,693,715	1,056,436	218,101	15,873	142,801	96,309	9,513
吉 野 郡		3,042,527	1,146,383	294,555	83,512	327,304	361,472	24,245
奈 良 市		565,854	400,090	88,098	2,295	6,409	5,710	3,876

	果菜類	葉菜類	根莖類	花卉類	工 藝 農 產 物	綠肥用 作 物	農產種 苗 類	青刈飼料 作 物	耕 地 一段步當	現 住 一人當	
總 數											
昭和	年 9	1,766,961	312,263	596,245	106,669	777,523	105,537	109,242	—	67.91	49.22
〃	10	1,893,502	267,048	655,059	186,256	803,648	112,953	85,142	—	73.49	53.45
〃	11	1,944,193	296,754	716,416	197,665	849,829	115,074	87,081	—	77.29	55.51
〃	12	2,195,344	371,179	796,699	261,723	1,057,028	117,717	113,797	—	86.96	62.10
〃	13	2,213,412	401,980	936,805	272,785	1,183,122	114,877	124,483	3,769	93.05	67.35
郡 市 別											
添 上 郡		310,018	50,737	102,181	7,449	283,358	10,726	3,754	48	90.40	115.51
生 駒 郡		211,814	80,739	76,847	81,032	27,721	14,580	1,603	439	92.08	73.17
山 邊 郡		387,938	24,163	43,872	14,285	247,977	7,931	3,742	74	92.78	98.31
磯 城 郡		474,220	51,495	105,289	43,582	65,206	3,539	55,767	1,893	114.67	89.10
宇 陀 郡		43,283	25,001	62,027	6,262	37,381	26,749	1,689	460	62.31	66.53
高 市 郡		106,470	34,623	140,615	6,499	20,829	4,175	10,695	—	110.09	76.73
北 葛 城 郡		311,184	23,339	193,714	52,173	21,634	1,654	26,216	15	116.37	74.61
南 葛 城 郡		179,854	11,687	34,758	33,628	5,324	11,095	4,783	284	111.68	78.20
宇 智 郡		73,897	11,622	20,949	240	21,247	20,108	6,284	335	86.41	66.80
吉 野 郡		93,269	73,181	139,956	24,555	449,770	14,154	9,950	221	58.35	30.89
奈 良 市		21,465	15,393	16,597	3,080	2,675	166	—	—	106.62	10.69

蠶 絲 業

蠶絲價額 昭和十三年中に於ける本縣の蠶絲業に依る生産額は養蠶2,930,257圓、蠶絲類1,223,946圓、蠶種190,851圓、眞綿2,165圓、合計4,347,219圓で前年に比し693,855圓(1割3分8厘)を減少してゐる、養蠶中春蠶は數量281,650貫その價額1,344,764圓、夏秋蠶は數量284,357貫價額1,585,493圓で前年に比し價額に於て前者は319,414圓(1割8分1厘)を減じ、後者は173,120圓(9分8厘)を減少し總産額價額に於て592,614圓(1割1分8厘)を減少してゐる、養蠶戸數は13,356戸で又1,084戸(8分1厘)を減じてゐる、養蠶家一戸當收額は42圓で前年に比し6圓を減少してゐる、蠶絲類中生絲は25,330貫、1,163,800圓、屑物6,566貫、60,146圓で前年に比し價額に於て前者は68,178圓(5分5厘)を減じてゐるが後者は14,977圓(3割3分2厘)の増加を來し總價額に於て53,201圓(4分2厘)の減少を來してゐる。

蠶種生産額は190,851圓で前年より48,095圓(2割1厘)少く、製造場數11となつてゐる、眞綿は製造場數僅に3にして産額2,165圓に過ぎず前年に比し55圓を増してゐる。

	總價額	養 蠶			蠶絲類	蠶 種	眞 綿	現 住 一人當
		總 額	春 蠶	夏 秋 蠶				
		總		數				
昭和	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓	圓
9	3,895,122	2,215,389	1,146,231	1,069,158	1,339,851	337,982	1,900	6.30
〃	5,699,693	3,788,887	1,452,002	2,336,885	1,658,132	251,014	1,660	9.26
〃	5,293,343	3,766,703	1,657,624	2,109,079	1,268,663	255,987	1,990	8.49
〃	5,041,074	3,522,871	1,764,258	1,758,613	1,277,147	238,946	2,110	8.06
〃	4,347,219	2,930,257	1,344,764	1,585,493	1,223,946	190,851	2,165	7.10
		郡		市		別		
添上郡	134,460	126,956	64,536	62,159	7,765	—	—	3.57
生駒郡	62,876	62,876	35,455	27,421	—	—	—	0.74
山邊郡	355,454	288,717	134,599	154,118	1,907	64,830	—	8.54
磯城郡	1,813,338	408,458	202,792	205,666	903,830	—	1,050	16.84
宇陀郡	463,753	373,282	98,614	274,668	4,820	85,651	—	12.36
高市郡	190,031	181,570	91,721	89,849	6,717	664	1,080	4.11
北葛城郡	125,788	125,788	70,337	55,451	—	—	—	1.63
南葛城郡	107,992	107,992	51,122	56,870	—	—	—	3.35
宇智郡	363,005	334,038	152,682	181,356	17,167	11,800	—	14.32
吉野郡	1,230,522	920,841	442,906	477,935	281,740	27,906	35	12.49
奈良市	—	—	—	—	—	—	—	—

工 業

工場 工場調査規則に依り職工五人以上を使用し又は五人以上の職工を使用する設備を有つ昭和十二年末の工場は1,114で前年に比し311を増してゐる、之を種類別に觀ると紡織工業の302(2割7分1厘)最も多く、食料品工業の236(2割1分2厘)之に亞ぐ他の金屬工業、機械器具

工業、窯業、化學工業、製材工業、印刷業、瓦斯電氣工業等は合せて603である、工場に勤務する労働者の總數は15,772人で前年より2,444人(1割6分8厘)多く、工場の年内生産額は58,226,272圓で前年より11,768,088圓(2割5分3厘)多く、總生産額の6割9分9厘を占めてゐる。

工産物價額 昭和十三年に於ける工産物價額は86,389,900圓で前年に比し3,041,305圓(3分6厘)を増し逐年増加の趨勢を示してゐる。

種類別に觀て最も多いのは紡織製品の32,763,776圓で總額の3割7分9厘に當り、現住人口一人に付ての工産額は141圓13錢となつてゐる、郡市別に觀ると二大紡績工場と大和賣藥の主産地及奈良市が最も多く、北葛城郡21,906,434圓、高市郡13,171,357圓、生駒郡13,032,762圓、奈良市12,474,531圓、で之等一市三郡を合せて總額の7割0分1厘を占めてゐる。

最近五ヶ年間に於ける比較並に郡市別は次の通である。

	總價額	紡織製品	機械及器具製品	化學製品	飲食料品	雜製品	特別製品	現住一人當	
	總 數								
昭和	年	円	円	円	円	円	円	円	
	9	67,281,976	28,881,037	1,693,260	17,242,805	9,770,549	9,516,372	177,953	108.70
〃	10	69,234,037	29,928,588	1,733,191	17,688,789	9,608,678	10,099,736	175,055	112.46
〃	11	74,341,290	29,553,626	5,952,080	15,254,938	11,046,343	12,361,449	172,854	119.26
〃	12	83,348,595	34,505,098	2,108,206	19,363,484	11,787,943	14,512,610	171,254	133.31
〃	13	86,389,900	32,763,776	6,517,317	17,602,154	12,979,961	16,308,211	218,481	141.13
		郡 別							
添上郡		1,099,555	264,262	5,609	81,378	642,553	105,753	—	29.23
生駒郡		13,032,762	9,954,200	63,596	627,391	1,236,203	1,151,372	—	153.10
山邊郡		2,399,380	307,345	159,103	86,734	1,281,167	556,625	8,406	57.65
磯城郡		8,672,542	1,966,610	194,371	1,532,232	1,789,069	3,190,230	—	111.22
宇陀郡		1,180,296	50,969	149,593	35,368	522,128	422,238	—	31.45
高市郡		13,171,357	2,269,863	782,486	8,124,187	648,287	1,346,534	—	285.16
北葛城郡		21,906,434	11,845,554	3,320,068	1,203,580	2,434,443	3,102,789	—	284.34
南葛城郡		5,859,703	854,996	544,716	3,188,597	686,873	584,521	—	181.63
宇智郡		2,542,388	873,738	72,470	201,760	489,586	904,834	—	100.28
吉野郡		4,050,952	51,393	38,604	899,412	1,629,692	1,431,851	—	41.12
奈良市		12,474,531	4,324,816	1,186,701	1,621,515	1,619,960	3,511,464	210,075	235.73

林 業

山林面積 昭和十一年末に於ける山林面積は179,000町4段で前回調査の昭和八年末に比し33町6段の減少を來してゐる。

之を種類別に觀ると御料林は67町3段(1厘)、國有林は2,825町3段(1分6厘)、民有林は176,107町8段(9割8分3厘)で更に之を郡市別に觀て最も多いのは吉野郡の125,93

5町5段で總面積の7割3厘を占め宇陀、添上、山邊、生駒、宇智、磯城、南葛城、高市、北葛城の諸郡順次之に亞ぎ最少は奈良市である。

森林植栽 昭和十三年中に於ける森林新植面積は1,557町0段で之が新植樹數は12,765,615本に及んでゐるが前年に比し面積に於て1,681町3段(5割1分9厘)樹數に於て2,325,376本(1割8分2厘)を夫々増加してゐる、新植は吉野郡がその大部分を占め、面積1,096町3段、樹數8,480,595本で總面積の7割6分8厘總樹數の6割6分4厘に該り他郡は併せて面積460町7段、樹數4,085,020本に過ぎない。

森林補植は1,638,074本で前年に比し569,637本(5割3分3厘)を増し、縣下各郡中吉野郡は1,358,020本で總補植樹數の8割2分9厘を占めてゐる。

天然造林 昭和十三年中に於ける天然造林は985町3段で内伐採跡地の天然造林は943町0段、無立木地は42町3段である、造林面積の最も多いものは宇陀郡256町9段(2割4分9厘)にして、添上、吉野、山邊の諸郡は何れも百町歩を超え磯城、奈良、高市、南葛城、生駒、北葛城、の諸郡順次之に亞ぎ宇智郡は最少である。

林産物價額 昭和十三年に於ける林産物價額は15,841,467圓で前年に比し5,509,987圓(5割3分3厘)を増加してゐる。

之を種類別に觀ると用材は12,931,158圓(8割1分8厘)薪炭材921,615圓(5分8厘)竹材31,948圓(1厘)で林野副産物は1,956,746圓(1割2分3厘)である。

最近五ヶ年間に於ける比較並にその概況は次の通である。

		總價額	用材	薪炭材	竹材	林野副産物	現住 一人當
		總數					
昭和	年	圓	圓	圓	圓	圓	圓
	9	6,212,061	4,346,597	569,460	28,377	1,267,627	10.04
〃	10	8,853,834	7,049,340	487,868	24,453	1,292,173	14.38
〃	11	8,351,545	6,427,388	516,405	39,530	1,368,222	13.40
〃	12	10,331,480	7,886,099	749,012	31,957	1,664,412	16.52
〃	13	15,841,467	12,931,158	921,615	31,948	1,956,746	25.88
		郡 別					
添上	郡	388,220	57,403	86,189	2,264	242,364	10.32
生駒	郡	123,413	12,433	36,579	3,761	70,640	1.45
山邊	郡	494,866	114,298	133,356	2,184	245,028	11.89
磯城	郡	314,462	148,218	68,950	3,987	93,307	4.03
宇陀	郡	1,245,699	560,192	234,275	3,675	447,557	33.19
高市	郡	215,005	122,651	45,430	3,304	43,620	4.65
北葛	城郡	45,163	16,003	12,583	760	17,370	0.59
南葛	城郡	112,711	20,991	48,409	1,456	41,855	3.49
宇智	郡	147,105	48,424	29,710	3,174	65,797	5.80
吉野	郡	12,746,281	11,828,150	222,783	7,318	686,474	129.40
奈良	市	8,542	2,392	3,351	65	2,734	0.16

鑛 業

鑛産物價額 昭和十三年の鑛産物價額は1,159,429圓で前年より382,544圓(3割3分0厘)を増加してゐる。

之を種類別に観ると採掘鑛産物は246,116圓(2割1分2厘)石材、土石及鑛水は913,263圓(7割8分8厘)で、吉野郡の509,684圓首位にして總額の4割4分0厘に當り次に生駒郡の238,120圓(2割5分)、全國的な金剛砂を産する北葛城郡は次に位し其の産額213,808圓で總額の1割8分4厘を占めてゐる。

最近五ヶ年に於ける比較並に郡市別は次の通である。

			總 價 額	採 掘 鑛 産 物	石 材 ・ 土 石 及 鑛 水	現 住 一 人 當
			總	部	別	
昭和	年	圓	圓	圓	圓	圓
	9	453,933	50,118	403,815	0.73	
〃	10	557,895	81,095	476,800	0.91	
〃	11	546,874	47,960	498,914	0.88	
〃	12	776,885	88,883	688,002	1.24	
〃	13	1,159,429	246,166	913,263	1.89	
郡 市 別						
添 上 郡		35,127	—	35,127	0.93	
生 駒 郡		238,120	—	238,120	2.80	
山 邊 郡		14,927	—	14,927	0.36	
磯 城 郡		25,710	—	25,710	0.33	
宇 陀 郡		54,403	25,368	29,035	1.45	
高 市 郡		14,519	—	14,519	0.31	
北 葛 城 郡		213,808	—	213,808	2.78	
南 葛 城 郡		1,520	—	1,520	0.05	
宇 智 郡		48,500	—	48,500	1.91	
吉 野 郡		509,684	220,798	288,886	5.17	
奈 良 市		3,111	—	3,111	0.06	

水 産 業

水産業者 昭和十三年末現在の水産業者は總數4,237人内男4,180人、女57人で業主は3,971人被用者は266人である、水産業を本業とする 業主は142人、被用者は108人で 副業とする 業主は3,829人、被用者は158人である。前年末に比して業主に於て363人(8分4厘)を減じ被用者に於て47人(1割5分1厘)を減少してゐる。

水産物價額 昭和十三年に於ける水産物價額は742,158圓で前年に比し34,292圓(4分6厘)を減じてゐる、之を種類別に観るに、養殖601,322圓(8割1分)漁獲140,836圓(1割4分)である、金魚を産する郡山町を有つ生駒郡はその産額最も多く388,996圓で水産總額の5割2分4厘を占め、金魚はその産額282,915圓で本縣水産業の王座を獨占してゐる。

最近五ヶ年に於ける比較並に郡市別は次の通である。

		總 價 額	養 殖	漁 獲	現 一 人 當	住 當
		總 數				
昭和	年	円	円	円		円
	9	648,001	549,709	98,292		1.05
〃	10	628,115	518,590	109,525		1.02
〃	11	689,939	578,547	111,392		1.11
〃	12	776,450	656,655	119,795		1.24
〃	13	742,158	601,322	140,836		1.21
		郡 市 別				
添 上 郡		60,586	56,003	4,583		1.61
生 胸 郡		388,995	381,794	7,201		4.57
山 邊 郡		28,602	27,143	1,459		0.69
磯 城 郡		23,437	20,259	3,178		0.30
宇 陀 郡		11,810	5,891	5,919		0.31
高 市 郡		14,703	12,028	2,675		0.32
北 葛 城 郡		93,184	68,668	24,496		1.21
南 葛 城 郡		13,236	10,070	3,216		0.41
宇 智 郡		25,396	1,480	23,916		1.00
吉 野 郡		75,400	11,207	64,193		0.77
奈 良 市		6,759	6,759	—		0.13

畜 産 業

家 畜 (未發表に付掲記せず)

家 禽 昭和十三年六月末に於ける家禽中鶏は飼養戸數 35,527 戸 羽數 752,974 羽で前年に比し戸數に於て 2,177 戸 (6 分 1 厘) 減じ、羽數に於て 45,930 羽 (6 分 5 厘) 増加してゐる。昭和十年七月より同十一年六月に至る産卵は個數 27,134,129 個でその價額は 955,626 圓に及び、前年に比し前者に於て 5,740,811 個 (1 割 8 分)、後者に於て 13,920 圓 (1 分 4 厘) 何れも増加して生雛の價額 219,976 圓と相俟つて 1,979,492 圓に達し本縣畜産物總價額の 4 割 4 分 5 厘を占めてゐる。

鶯は 1,341 羽その飼養戸數は 97 戸で前年に比し戸數に於て 54 戸 (3 割 5 分 8 厘) を減じ羽數に於て 634 羽 (3 割 2 分 1 厘) を減少してゐる、一ヶ年間の産卵は 42,872 個、その價額は 1,575 圓である。

養 蜂 昭和十三年末に於ける蜜蜂の飼養戸数は355戸にして前年より14戸を減じ、箱数は1,500個である、同年中の蜜蜂の産額は10,565圓で前年に比し1,058圓(1割1分2厘)を増加し、蜜蠟は僅に12圓に過ぎない。

畜産物價額 昭和十三年に於ける畜産物價額は3,816,140圓で前年に比し1,362,018圓(5割5分5厘)を増し種別類に觀ると犢は212,755圓(5分6厘)鶏(産卵共)2,207,792圓(5割7分9厘)牛乳226,590圓(5分9厘)屠殺1,081,314(2割8分3厘)其の他87,689圓(2分3厘)である。

最近五ヶ年に於ける比較並に郡市別の概況は次の通り。

	總價額	犢	駒	仔豚	仔綿羊及 仔山羊	鶏 (産卵共)	鶯 (産卵共)	蜜 蜂 (蜂 蜜 蜜 蠟共)	牛 乳	屠 殺	家 兎 (仔 兎 及 剥 皮)	現 住 一 人 當	
	總						數						
昭和	年	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	
	9	2,012,061	39,579	—	7,318	938	1,003,865	1,914	9,822	190,217	758,408	—	2
〃	10	2,080,041	72,406	—	7,158	423	978,340	2,914	8,086	196,752	813,932	—	3.38
〃	11	2,199,610	108,155	—	12,997	257	1,079,884	1,717	9,008	223,692	763,900	—	3.53
〃	12	2,454,123	155,875	—	13,482	1,391	1,113,801	2,528	9,507	211,607	941,204	4,728	3.93
〃	13	3,816,140	212,755	—	53,461	2,932	2,207,792	1,779	10,565	226,590	1,081,314	18,951	6.23
		郡						市 別					
添 上 郡		536,914	6,461	—	2,708	72	522,977	988	305	1,650	—	1,753	14.28
生 駒 郡		784,344	2,615	—	3,642	396	520,498	12	433	10,054	244,808	1,886	9.21
山 邊 郡		224,314	10,197	—	17,498	209	170,998	9	264	15,018	6,918	3,203	5.39
磯 城 郡		488,124	16,685	—	14,283	103	277,879	357	5,630	33,315	132,032	7,840	6.26
宇 陀 郡		240,918	70,305	—	2,113	152	101,796	89	438	10,525	54,668	832	6.42
高 市 郡		123,372	7,462	—	4,173	—	105,015	—	154	5,605	—	963	2.65
北 葛 城 郡		555,048	6,456	—	2,594	118	192,940	3	1,015	34,403	316,750	769	7.20
南 葛 城 郡		212,923	21,056	—	927	247	92,193	119	168	30,142	67,648	423	6.60
宇 智 郡		183,003	14,453	—	116	618	57,082	62	793	27,755	81,668	456	7.22
吉 野 郡		259,516	43,633	—	4,365	1,018	130,831	140	1,311	18,803	58,589	826	2.63
奈 良 市		207,664	13,432	—	1,042	—	35,583	—	54	39,320	118,233	—	3.92

商 業 及 金 融

會 社 本縣内に本社又は本店を有する昭和十三年末の會社は421その拂込資金及出資額は總額35,186千圓である。

會社の組織より觀ると株式會社153、合資會社164、合名會社104で拂込資本金又は出資額は株式28,731千圓、合資3,858千圓、合名2,598千圓でその平均は株式188千圓、合資24千圓、合名25千圓である。

總會社を資本金高別に觀ると1萬圓未満164、五萬圓未満153、十萬圓未満47、五十萬圓未満44、百萬圓未満9で百萬圓以上のものは僅に株式會社に於て4を數ふるに過ぎない、更に之

を業態別に區別すると商業の194最も多く總數の4割6分1厘を占め、工業の149、運輸業の49、農業の26、水産業の2順次之に亞ぎ鑛業は1會社に過ぎない。

銀行 昭和十三年末に於て本縣内に本店を有つ銀行は3行その支店及出張所は53にして拂込資本金は10,424,475圓、準備金は5,206,700圓にして前年に比して前者は4,100圓、後者は240,000圓を増加してゐる、昭和十三年中の入金は2,046,643,854圓、出金は2,046,644,744圓で、利益金は807,083圓、配當金は330,000圓である、昭和十三年末の預金現在高は66,089,191圓にして前年末に比し7,875,117圓（1割3分5厘）を増してゐる。

郵便貯金及郵便爲替 昭和十三年度末に於ける郵便貯金預入人員は582,937人、その金額は50,860,338圓で前年より90,717人、6,059,097圓多く、預入人員一人當金額は87圓25錢にして前年度末に比し一人當3圓77錢を減じてゐる。

昭和十三年度中に於ける内國郵便爲替振出は口數256,141口、その金額6,491,809圓、平均一口25圓34錢にして前年に比し14,619口635,046圓を増してゐる、拂渡は口數381,139口その金額9,269,004圓、平均一口24圓32錢で口數に於て24,075口、金額に於て988,624圓を増してゐる、外國郵便爲替は振出153口10,473圓、拂渡12,078口433,068圓で前年度に比し振出4口を減じ3,190圓を増し、拂渡に於て5,936口227,688圓の夫々増加を示してゐる。

質營業 昭和十三年末に於ける質營業者は134戸で前年末より7戸少く、その入質件數は150,609件、貸付金額は694,638圓一件當貸付金は4圓61錢となり、前年より23,049件少く、金額に於て25,788圓を増してゐる、受戻件數は126,519件之が金額562,347圓で前年より17,564件少く金額に於て1,153圓少く、流質件數は16,626件67,438圓にして前年に比し5,953件43,305圓少くなつてゐる。

交通及災害

道路 昭和十三年末に於ける道路總延長は15,572軒714、内國道57軒647、縣道1,175軒540、市道202軒283、町村道14,137軒244で前年末に比し131軒624を減じてゐる。

鐵道軌道 昭和十三年末鐵道軌道延長は262軒8で内國有94軒6、私有168軒2、停車及停留場137、内國有26、私有111である、同年中に於ける（以下官設鐵道は含まず）乗車人員は21,117,508人（一日平均57,856人）降車人員22,272,365人（一日平均61,020人）で貨物營業收入の内旅客収入は2,968,122圓、貨物及手小荷物収入は158,152圓である。

通信 昭和十三年度末に於ける郵便局は集配局69、無集配局62、總數131で前年より1局を増してゐる、同年度中の郵便物は通常郵便の引受40,981,623、配達45,738,377で人口に對する割合は一人につき引受67通、配達75通に該つてゐる、小包郵便は引受704,035、配達644,507で人口一人につき一通個の小包を收發してゐる譯である。

電信取扱局は120で發信343,961、受信382,773となり前年に比し局數2を増し、發信9,903、受信13,810を夫々増加してゐる。

電話取扱所は總數124、内交換局94、通話局30にして電話加入者は8,471人となり前年

に比し局數6、加入者157人を増加し人口千に對する加入者の割合は14人となつてゐる。

水災及暴風雨被害 昭和十三年の水災及暴風雨被害損失見積價額は5,888,410圓である、特に被害の多かつたのは淀川流域に於ける被害損失見積價額の2,705,683圓にして總見積價額の4割8分4厘を占め、大和川流域は1,930,171圓、紀ノ川流域の506,283圓之に亞ぎ、熊野川流域は446,253圓である。

社 會

慈惠賑恤資金 昭和十三年度末の慈惠賑恤資金歳入出内歳入19,183圓、歳出17,512圓にして其の主なるものは教護院費、補助費等で二者合せて16,659圓、總支出の9割5分1厘を占めてゐる。

社會事業 昭和十二年末に於ける社會事業團體は10、職員は95人にして收容人員186人、内男101人女85人で恩賜財團濟生會御所病院最も多く72人を收容してゐる。

常設及農繁託兒所 昭和十三年末に於ける常設託兒所は21、職員78人、收容託兒1,182人、經費22,835圓に及び次第に増加してゐる、同年春、秋二季の農繁託兒所は220託兒8,977人、經費6,259圓で逐年増加の傾向がある。

行旅病死 昭和十三年度末現在の行旅病人は7人で年度内に新に救護を受けた者は26人である、同年度中の行旅死亡人は37人中15人は變死者である。

日本赤十字社及愛國婦人會 昭和十三年末に於ける赤十字社員は28,683人で中佩有功章36人、特別697人、終身生16,409人、正社員11,541人で、愛國婦人會員は33,149人中佩有功章873人、特別維持27人、特別1,718人、通常30,752人となつてゐる。

勞 働

小作爭議 昭和十三年に於ける小作爭議は87件、關係者3,247人、中地主654人、小作人2,593人、關係地1,307町4段、内田1,296町4段、畑11町で前年より42件少く、關係者に於て1,649人、關係地に於て790町6段の減少を示してゐる。

健 康 保 險

工場及被保險者 昭和十三年度末に於ける健康保險法適用工場及事業場數は1,044で前年度に比し17(1分7厘)を増加してゐる。

被保險者は總數12,321人中男7,410人、女4,911人で前年度に比べて384人(3分2厘)を増してゐる。

教 育

學齡兒童 昭和十三年三月一日現在に於ける學齡兒童總數は115,829人で男は58,672人、女は57,157人中就學始期既達者は101,309人(男51,314人、女49,995人)就學始期未達者は

14,520人、(男7,358人、女7,162人)で前年度に比べ前者は33人を、後者は478人を、總數に於て520人を共に減じてゐる、學齡兒童の中尋常小學校の在學者及卒業者は100,959人で、不就學兒童は350人ありその中就學猶豫は255人、就學免除は95人となつてゐる、就學始期既達者100人中の就學歩合は99.65人にして前年度に比し0.02人を減じてゐる。

小學校 昭和十三年三月一日現在に於ける小學校は322校ありその内譯は尋常小學校121、尋常高等小學校198、高等小學校3で前年度と同じである。

學級は尋常340、尋常高等2,018、高等11、合計2,369で前年度に比し40學級を増してゐる、教員は總數2,632人内男1,751人、女881人で前年度より41人多い、教員を資格別に觀ると小學校本科正教員2,051人(7割7分9厘)、尋常小學校本科正教員177人(6分7厘)専科正教員112人(4分3厘)、准教員6人(2厘)、代用教員286人(1割9分)となつてゐる。

兒童は102,380人、内尋常科86,001人、高等科16,379人で前年度より尋常科、高等科共に多く、合計に於て492人(4厘)を増してゐる。

入學者は23,324人内尋常科14,524人、高等科8,790人で前年度より108人(5厘)少く、卒業者は尋常科13,635人、高等科7,537人、合計21,172人で前年度より629人(3分1厘)を増してゐる。

師範學校 縣立二校ありその學級19、教員は兼務者を除き42人で内有資格者39人、無資格者3人となつてゐる、生徒は408人、入學者150人、卒業者147人で何れも前年と大差なく入學歩合は志願者百に付き35人となつてゐる。

青年學校教員養成所 縣立農事試驗場に併置し學級1、教員10人、内専務者2人、兼務者8人で生徒は18人あり、隔年に20人内外の卒業者を出してゐる。

中學校 縣立5校、私立3校あり學級は合計111で教員の總數は他よりの兼務者を除き194人、一校當の教員は24.3人となつてゐる、教員の内有資格者は173人で總數の8割9分を占め、生徒は總數5,042人で前年より263人を増して一校當630人、教員一人當26人となつてゐる卒業者は783人で前年度より29人多い、入學者は1,204人で入學者願書に對する割合は百人につき67.0人である。

高等女學校 縣立6校、町立1校、私立2校、合計9校あり、學級は109、教員は本務者189人で内有資格者176人(9割3分1厘)となつてゐる、生徒の總數は4,960人で、逐年増加し前年度より261人(5分5厘)多く、卒業者は935人、入學者(第一學年)は1,165人となつてゐる入學志願者百人に對する入學者の割合は77人である。

實業學校 (甲)校數は14でその内譯は農業3、工業2、商業2、職業學校7となつてゐる、學級は合計85、内農業20、工業15、商業17、職業33で前年度より8學級を増し、教員153人、内農業38人、工業32人、商業30人、職業53人で前年度と大差なく生徒は總數3,526人で内農業886人、工業567人、商業760人、職業1,313人前年度より163人を増してゐる、入學者は985人でその内譯は農業215人、工業116人、商業220人、職業451人となり第一學年の志願者百人につき入學者の割合は農業64人、工業44人、商業57人、職業96人となつてゐる。

卒業者874人内農業151人、工業107人、商業116人、職業500人で前年度に比べて13

人を増してゐる。

實業學校 (乙) 農業2、職業2、合計4校あり、學級は13、内農業6、職業7にして前年度と移動なく兼務者を除く教員は16人、内農業9人、職業7人である、生徒505人、内農業268人職業237人で前年度に比し22人を減じてゐる。

入學者は224人、内農業88人、職業111人で本科の入學志願者百人に對する入學者は農業78人、職業94人で卒業者は171人、内農業87人、職業84人となつてゐる。

青年學校 校數235、内私立2校にしてその學級は544で教員は本務者207人、兼務者1,149人となつてゐる、指導員は721人で生徒の總數は14,660人内男11,284人、女3,376人で一校當の生徒數は62.4人で入學者は8,343人、卒業者2,957人であるが年度内の退學者2,893人を算してゐるのは遺憾である。

盲啞學校 1校あり11學級で教員14人、生徒は102人で内學齡兒童は61人の過半數を占めてゐる入學者は32人、卒業者は10人で前年度に比べて教員に於て3人、生徒に於て8人を増してゐる。

各種學校 23校あり學級114で教員は本務者138人、兼務者155人となつてゐる、縣内に本部を有つ天理教の教校が甚だ大きい爲生徒數も極めて多く3,716人となり、入學者及卒業者も前者6,572人、後者5,700人の多數に上り昭和十二年度の經費總額も收入302,750圓、支出442,364圓に達してゐる。

幼稚園 園數は17で逐年その數を増し組數58、保母68人、幼兒1,779人、入園兒1,639人、保育滿期者1,337人で前年度より組數4、幼兒151人、入園兒150人、保育滿期者97人を各増してゐる。

圖書館 圖書館令に依る圖書館は館數86で藏書冊數は310,580冊、開館延日數22,675日で閱覽人員は302,481人となり前年度に比べて圖書冊數6,042冊、閱覽人員12,399人を増してゐる、一館當り一日の閱覽人員は92人餘りとなつてゐる。

青年團 青年團は男女合せてその數296で内男149、女147で正團員の總數は37,821人、内男22,869人、女14,952人で支出經費は50,140圓となつてゐる、前年度に比し團數に於て統一せし爲2を減じ、團員は300人を減じてゐる、一青年團當りの經費は169圓餘となつてゐる。

公學費 昭和十二年度の公學費歳入總額は1,785,131圓、内縣費586,255圓、市費43,860圓町村費1,155,016圓で前年度より27,438圓(1分5厘)を増してゐる、歳出總額は4,830,367圓、内縣費1,542,824圓、市費174,218圓、町村費3,113,325圓で前年度より353,048圓(7分3厘)を減じてゐる。

公學資産 昭和十二年度末に於ける公學資産の總見積價額は15,637,289圓で内縣に屬するものは4,260,535圓、市1,608,137圓、町村9,768,617圓で前年度より1,477,358圓(1割4厘)多くなつてゐる、建物の價額は9,743,233圓で總價額の6割2分3厘を占め土地價額は敷地附屬地を合せて3,366,691圓(2割1分5厘)圖書機械、標本器具價額は合せて2,527,365

圓（1割6分2厘）となつてゐる。

社 寺

神 社 昭和十三年末の神社は1,520でその内譯は官幣社10、縣社25、郷社28、村社1,061無格社395、招魂社1となつてゐる、この中神饌幣帛料供進指定神社は416となつてゐる。

神 職 昭和十三年末に於ける神職は總數339人内官幣社61人、縣社45人、郷社41人、村社189人、無格社3人で前年末に比べて2人多く、神社一につき神職の數は官幣社6.1人、縣社1.8人、郷社1.5人、村社0.2人となつてゐる。

寺 院 昭和十三年末の寺院は1,799で眞宗の631ヶ寺が最も多く、淨土宗の346ヶ寺、眞言宗の339ヶ寺之に亞ぎ、其の他の各宗の寺院は合せて483ヶ寺に過ぎない。

住 職 寺院に仕ふる住職は昭和十三年末に於て總數1,330人で、眞宗の549人は最も多く淨土宗の249人、眞言宗の204人、融通大念佛宗の142人等はその主なるもので、その他は合せて186人に過ぎない、一寺院に對する住職の割合は0.7人に該る。

警 察

警察職員 警察部及縣下18警察署の職員總數は532人で内512人は警察官にして職員總數の9割6分2厘に該つてゐる。

定員巡査1人に對する人口は1,118人で更に之を警察署に屬する警部補巡査の總數489人に對比すれば1,230人に該つてゐる。

交通事故 昭和十三年に於ける自動車、自動自轉車、自轉車、電車、汽車、人力車、荷車等に依る交通事故の件數は161件なり其の最も多きは自動車の75件で總數の4割6分6厘を占め、電車の45件、汽車の13件等順次之に亞ぎ、死者數は46人、傷者數は161人で歩行者の被害最も多く74件で死傷合せて78人に及んでゐる。

火災及消防 昭和十三年に於ける家屋火災の度數は105件で失火は98件に及び總數の9割3分3厘を占め、之を住家非住家別に觀ると住家の内全燒棟數は72、半燒棟數は20で其の燒失延坪は1,709坪となり、非住家は全燒棟數は43、半燒棟數は14で其の燒失延坪は453坪となつてゐる。

火災に依る損害見積總額は166,685圓にして前年より2,686,346圓少く火災度數1回に付25,584圓の割合である。

山林、原野の火災度數は30件あり前年より11件少い、燒失坪數は656,220坪で損失見積額は70,830圓となつてゐる。

消防組は昭和十三年末に於て消防組163あり、その組員の總數は19,363人で一年間の經費は100,361圓となつてゐる、ガソリン唧筒は自動車19で其の他のものは260あり腕用唧筒は次第に減少して281となつてゐる。

變 死 昭和十三年中の變死者の總數は268人で前年より38人少く、之を種類別に觀ると自殺122人、被殺害14人、災害其の他132人にして自殺總數の4割5分5厘に該る、自殺者の12

2人を因由別に観ると其の主なるものは病苦に依る35人(1割3分1厘)精神錯亂の27人(1割0分1厘)其の主なるものである。

自殺者を年齢別に観れば50歳以上が45人にして其の首位を占め、20歳以上30歳未満の37人、30歳以上40歳未満の17人、40歳以上50歳未満の10人等は最も多い。

投宿人員 昭和十三年中の投宿總人員は648,537人で一日平均1,777人の割合となり、前年中に比較すれば211,434人(2割4分6厘)を増してゐる、總數の中642,636人(9分9厘)は本縣人で其の大多數は他府縣人が占め、730,997人(1割2分3厘)で外國人は896人に過ぎない。

精神病者 昭和十三年末に於ける精神病者は1,295人で前年より比し269人多く總數の中976人(7割5分4厘)は收容又は監置を要せない者である。

貸座敷 昭和十三年末の貸座敷數は75、娼妓は695人でその一戸當9人となつてゐる、同年中の遊興人員は492,194人、その消費金額は1,111,552圓で前年に比べて前者11,047人(2分3厘)後者48,392圓(4分6厘)を各増加してゐる。

犯罪 昭和十三年中に於ける犯罪の發生件數は7,006件にして前年に比し679件(9分7厘)を減少してゐる、犯罪中最も多いものは強竊盜の罪1,839件で、諸法令違反は1,546件、業務上横領の罪1,175件、詐欺及恐喝の罪1,169件等はその發生の多いもので之等を合して8割1分8厘に該り、他の犯罪は併せて1割8分2厘に過ぎない。

縣外發生事件を含む檢舉件數は7,689件で前年より4,385件(5割7分)を減少してゐる。

衛 生

醫師 昭和十三年末の醫師總數は357人、その免許資格別を觀ると官公私立専門學校卒業210人(5割8分8厘)大學卒業100人(2割8分0厘)試験及第45人(1割2分6厘)從來開業1人(3厘)限地開業1人(3厘)となつてゐる。

醫師一人に對する人口の割合は1,715人で郡市別に觀て最も高いのは添上郡の3,210人で最も低いのは奈良市の725人である。

齒科醫師 昭和十三年末の齒科醫師總數は166人で前年より10人多く、之を資格別に觀れば指定學校の卒業者は96人で總數の5割7分8厘に該り、試験及第は70人(4割2分2厘)となつてゐる。

藥劑師 昭和十三年末現在の藥劑師總數は265人で前年より11人を増したのみである、官公私立指定藥學専門學校卒業196人にして總數7割4分0厘に當り、試験及第者は69人となつてゐる。

産婆 昭和十三年末の産婆は694人にして前年末より25人多い。

傳染病 昭和十三年中の法定傳染病患者は腸チブス406人、赤痢178人、デフテリヤ138人、猖紅熱41人、パラチブス7人、流行性腦脊髓膜炎5人、合計775人に及び前年に比して149人(2割3分8厘)を増加してゐる、以上の中死亡率の最も高いものは流行性腦脊髓膜炎の8割、腸チブス2割、赤痢及パラチブスの1割8分5厘、デフテリヤの1割5分2厘、猖紅熱2分4厘の順となつてゐる。

種痘 昭和十三年に於ける第一期公種痘 16,830 人で其の善感割合は 9 割 6 分 3 厘である、同年中の第一期私種痘 415 人で善感割合は 9 割 9 分 8 厘、第二期公種痘 15,917 人で其の善感割合 7 割 9 分 6 厘、第二期私種痘は 29 人で善感割合は 8 割 6 分 2 厘となつてゐる。

裁 判 及 登 記

民事裁判 昭和十三年中の各裁判所に於ける民事終局件数は 7,308 件、内第一審訴訟 3,760 件、控訴 80 件、抗告 5 件、非訟 2,410 件、和解 29 件、督促 1,024 件、強制執行 161 件で前年より 1,397 件 (1 割 9 分 1 厘) を増してゐる。

登記 昭和十三年中の登記件数は 總數 51,075 件で登録税及手数料は 281,100 圓に及び前年に比べて前者は 9,491 件を減少し、後者は 49,435 圓を増してゐる、甲號の不動産登記は 34,779 件でその登録税は 260,067 圓に及び登記の最も主要な部分を占め、甲號登記の主なるものには以上の外 商事會社登記 481 件、産業組合登記 422 件、養蠶實行組合登記 236 件、農業用動産低當權登記 124 件等がある。

財 政

國費 昭和十三年度に於ける國庫經費の本縣支出額は 3,562,485 圓 (特別會計を除く) で前年に比し 262,847 圓 (6 分 9 厘) の減少となつてゐる。

縣費 昭和十三年度に於ける縣歳入額は 7,866,238 圓で内經常部は 3,430,010 圓、臨時部は 4,436,228 圓となり前年度に比べて 792,159 圓 (1 割 1 分) を増してゐる、稅收入は 2,794,905 圓で歳入總額の 3 割 5 分 5 厘に該り、その他の主なるものは 國庫補助金の 1,475,020 圓 (1 割 8 分 8 厘) 縣債の 1,258,570 圓 (1 割 6 分) 使用料及手数料の 519,939 圓 (6 分 6 厘) 等である。

歳出は總額 7,565,829 圓、内經常費 2,761,427 圓、臨時部 4,804,582 圓で前年度より 88,548 圓 (1 割 1 分 7 厘) 多く、その主なるものは土木費 1,771,566 圓 (2 割 3 分 4 厘)、教育費 871,277 圓 (1 割 1 分 5 厘) 等である。

市町村費 昭和十二年度に於ける市町村費歳入額は 9,430,676 圓にして前年度より 129,800 圓 (1 分 4 厘) 少く、歳入の内稅收入は 3,745,352 圓で總額の 3 割 9 分 7 厘を占め、繰越金 1,044,391 圓 (1 割 5 分 3 厘) 國庫下渡金 972,731 圓 (1 割 1 分 1 厘) 臨時町村財政補給金 (862,503 圓 (9 分 2 厘) 雜收入 627,945 圓 (6 分 7 厘) 寄附金 530,854 圓 (5 分 6 厘) 町村債 297,107 圓 (3 分 2 厘) 等は其の主なるものである。

歳出は總額 8,430,789 圓で前年度より 90,864 圓 (1 分 1 厘) 少く、歳出の主なるものは教育費 3,200,971 圓 (3 割 8 分 0 厘) が筆頭で役所役場費は 1,344,346 圓 (1 割 5 分 7 厘) 土木費 533,477 圓 (6 分 3 厘) 等は其の主なるものである。

諸稅負擔 昭和十二年度に於ける縣民負擔の租稅は 總額 8,831,535 圓で前年度より 118,543 圓 (1 分 3 厘) を増してゐる、租稅の内譯は 直接國稅 2,555,785 圓、縣稅 2,530,398 圓、市町村稅 3,745,352 圓で之を現住戸口に對比すると一戸當りは國稅 20 圓 74 錢、縣稅 20 圓 53 錢

市町村税30圓39錢、合計71圓66錢で人口一人當は總額13圓33錢となり一人當にして前年度より1圓03錢を減じてゐる。

選 舉 及 官 公 吏

選 舉 毎七年改選の貴族院議員多額納稅者議員の昭和七年九月第七回選舉に於ける議員定數は1人互選資格者は100人である、互選權を有する者の直接國稅の總納額は107,305圓で前回より111,431圓少く、一人當納稅額の最高は12,660圓、最低は381圓である。

昭和十三年十二月二十日現在の衆議院議員は5人で選舉有權者は130,324人である、人口千につき選舉有權者は20.84人で議員一人に對する有權者は26,065人である。

昭和十三年十二月二十五日の縣會議員は30人にして、その選舉有權者總數は127,104人で前年より有權者4,212人を減じ、議員一人につき有權者は4,239人、人口は20,405人に該つてゐる。

昭和十三年末現在の市町村會議員は2,151人で、その内譯は市會議員36人、町會議員472人、村會議員1,642人となつてゐる、選舉有權者は市會10,346人、町會35,687人、村會81,071人、合計127,104人で一市町村當議員は14.25人、その有權者は870人となつてゐる

官 公 吏 昭和十三年末に於ける縣職員の總數は1,362人、(學校職員並神職を除く)その俸給年額は959,331圓で内譯は勅任1人、奏任22人、奏任待遇66人(内休職1人を含む)判任196人(内休職2人を含む)判任待遇781人、縣吏員89人、雇員204人となつてゐる、一人當の俸給年額は704圓35錢に該る。

昭和十三年末現在の市町村制に依る市町村吏員の總數は4,452人で報酬俸給年額437,082圓で内名譽職は3,501人である、有給吏員一人當の俸給年額は459圓60錢に該る。